

## シラバス〔道徳〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学1年	グローバル選抜探究	道徳	道徳	1
教科書・教材				
『中学道徳 あすを生きる1』日本文教出版				

授業のねらい（年間指導目標）	
生徒一人ひとりが、道徳的な課題に対して受け身ではなく主体的に向き合い、対話や議論を通じて、自分の考えを伝え、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ、深めながら、道徳性を高める。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1学期	～「いじめ」と向き合う①～ 「近くにいた友」、「さかなのなみだ」
	～よりよい社会と私たち①～ 「違いを乗り越えて」、「あふれる愛」
2学期	～よりよい社会と私たち②～ 「疾走、自転車ライダー」、「部活の帰り」
	「富士山から変えていく」、「木の声を聞く」
3学期	～「いじめ」と向き合う②～ 「旗」、「自分だけ「余り」になってしまう・・・」
評価方法	
各学習活動において、観察や会話、作文やノートなどの記述内容を通し、以下の項目を中心に、総合的に評価する。	
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。	
②自らの生活や考えを振り返り、自己の在り方・生き方をより深く考えることができたか。	
備考	

## シラバス〔道徳〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学1年	未来探究	道徳	道徳	1
教科書・教材				
『中学道徳 あすを生きる1』日本文教出版				

授業のねらい（年間指導目標）	
生徒一人ひとりが、道徳的な課題に対して受け身ではなく主体的に向き合い、対話や議論を通じて、自分の考えを伝え、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ、深めながら、道徳性を高める。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1学期	～「いじめ」と向き合う①～ 「近くにいた友」、「さかなのなみだ」
	～国際理解～ 「違いを乗り越えて」、「あふれる愛」
2学期	～安全に生きる～ 「疾走、自転車ライダー」、「部活の帰り」
	～環境～ 「富士山から変えていく」、「木の声を聞く」
3学期	～「いじめ」と向き合う②～ 「旗」、「自分だけ「余り」になってしまう・・・」
評価方法	
各学習活動において、観察や会話、作文やノートなどの記述内容を通し、以下の項目を中心に、総合的に評価する。	
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。	
②自らの生活や考えを振り返り、自己の在り方・生き方をより深く考えることができたか。	

備考

## シラバス〔道徳〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学2年	未来探究	道徳	道徳	1
教科書・教材				
『中学道徳 あすを生きる2』日本文教出版				

授業のねらい（年間指導目標）	
生徒一人ひとりが、道徳的な課題に対して受け身ではなく主体的に向き合い、対話や議論を通じて、自分の考えを伝え、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ、深めながら、道徳性を高める。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1学期	～よりよい社会と私たち①～ 「自分の弱さと戦え」、「挨拶は言葉のスキンシップ」、「最後のパートナー」
	～「いじめ」と向き合う①～ 「五月の風 -カナ-」、「五月の風 -ミカ-」、「リスペクト アザース」
2学期	～「いじめ」と向き合う②～ 「名乗り出なかった友」、「ハイタッチがくれたもの」、「ヨシト」、「ネット将棋」
	～よりよい社会と私たち②～ 「自分ってなんだろう」、「小さな工場の大きな仕事」、「体験ナースをとおして」
3学期	～よりよい社会と私たち③～ 「コトコの涙」、「門掃き」、「避難所にて」
評価方法	
各学習活動において、観察や会話、作文やノートなどの記述内容を通し、以下の項目を中心に、総合的に評価する。	
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。	
②自らの生活や考えを振り返り、自己の在り方・生き方をより深く考えることができたか。	

備考

シラバス〔道徳〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学3年	未来探究	道徳	道徳	1
教科書・教材				
『中学道徳 あすを生きる3』日本文教出版				

授業のねらい（年間指導目標）	
生徒一人ひとりが、道徳的な課題に対して受け身ではなく主体的に向き合い、対話や議論を通じて、自分の考えを伝え、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ、深めながら、道徳性を高める。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1学期	～「いじめ」と向き合う①～ 「銀メダルから得たもの」、「違うんだよ、健司」
	～よりよい社会と私たち①～ 「あるレジ打ちの女性」、「『稲むらの火』余話」
2学期	～「いじめ」と向き合う②～ 「言葉の向こうに」、「二通の手紙」
	～よりよい社会と私たち②～ 「電車の中で」、「臓器ドナー」
3学期	～よりよい社会と私たち③～ 「本とペンで世界を変えよう」、「町内会デビュー」
評価方法	
各学習活動において、観察や会話、作文やノートなどの記述内容を通し、以下の項目を中心に、総合的に評価する。	
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。	
②自らの生活や考えを振り返り、自己の在り方・生き方をより深く考えることができたか。	

備考